

英 語

1 教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

総合英語	英語科において、すべての生徒に必ず履修させる科目である。英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できる力を身に付けることをねらいとしている。
英語理解	聞いたり読んだりする活動を中心として、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、それらの情報や考えと自分の考えとを比較することなどを通して自らの考えをより深めたりする能力を一層伸ばすことをねらいとしている。
英語表現	話したり書いたりする活動を中心として、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばすことをねらいとしている。
異文化理解	英語科において、すべての生徒に必ず履修させる科目である。英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、我が国の文化との相違や類似性、異文化の背景となっている価値観やものの見方、考え方などを、英語による実際のコミュニケーションを通して認識させ、実際にコミュニケーションを図ることができるようにするための態度や能力の基礎を養うことをねらいとしている。
時事英語	新聞やテレビ、情報通信ネットワークなどで用いられる英語を理解し、それらの媒体から得た情報のうち、必要な情報を選択し、それらを活用して話したり書いたりする基礎的な能力を養うことをねらいとしている。

(2) 配慮すべき事項

英語科の各科目には、その性格、目標及び内容により、他の科目の基礎となる学習を中心とするもの、発展的な学習を中心とするもの、他の科目との補完性の強いものなどがある。各科目の関連に留意し、指導の時期や順序などについて検討して、各科目を有

機的に関連付けた指導を通して、英語科の目標が達成できるような綿密な指導計画を立てることが大切である。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成上の留意事項

「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、全ての生徒に履修させること。

(2) 内容の取扱い

(ア) 「総合英語」は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容を、また、「英語表現」については「英語表現Ⅰ」及び「英語表現Ⅱ」の内容を十分参考にすることが望ましい。

(イ) コミュニケーション能力の育成を図るために、各科目の内容を取り扱う際には、知識の理解や技能の習熟に終始するのではなく、最終的にはコミュニケーション能力の育成につながる指導を行う。

(ウ) 各科目の内容は、過度に専門化したり、あまりに高度なものとなったりしないよう十分配慮し、基礎的・基本的な知識や技能の習熟に資するものから段階的に指導する。

(3) 内容の取扱いに当たっての配慮すべき事項

(ア) 英語科において、言語活動を行う際の基本的な条件には、

- ① 情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践する活動とすること
 - ② 情報や考えなどを実際に理解したり伝えたりする具体的な言語の使用場面を設定すること
 - ③ 生徒に多様な言語活動を経験させること
- などがあり、これらの条件が満たされるように言語活動を行うことが重要である。

(イ) 英語科の各科目の特質は、言語に関する技能そのものの習得を目的としていることである。英語に関する学科の各科目の授業においては、訳読や和文英訳、文法指導が中心とならないよう留意し、生徒が英語に触れるとともに、英語でコミュニケーションを行う機会を充実することが必要である。そのため、文法は、英語で行う言語活動と効果的に関連付けて指導するよう配慮する。

(ウ) 教材については、英語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとし、次の観点に留意する。

- ① 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- ② 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ③ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- ④ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。